

施政方針 平成22年度

平成22年第1回熊野町議会定例会において、町長が平成22年度の施政方針を述べました。

町政運営に対する所信と施策の概要をお知らせします。

(政策企画課)

はじめに

昨年10月から、町内14の自治会ごとに地域懇談会を開催し、町民の皆さんから直接、ご意見やご要望をお聞きしたところですが、新年度においても、可能な限り現場に赴き、町民の皆さんとの対話を重ねながら、町政の運営に取り組み所存です。

町を取り巻く諸情勢

「社会経済情勢」

長引く景気の低迷は、企業の大幅な収益悪化や高い失業率を招き、円高とデフレの進行もあって依然として、厳しい状況が続いています。

ます。

こうした中で、国政では、政権が交代し、民主党を中心とした政権が誕生しました。また、広島県でも新しく湯崎知事が就任されるなど、政治の流れも大きく変化してきています。

新政権では、「政治主導」、「コンクリートから人へ」、「予算編成プロセスの透明化」を掲げて、平成22年度予算案が編成されました。

町としても、こうした国や県の動向を踏まえながら、町民の雇用や生活を守るための効果的な対策を速やかに講じて参ります。

「地方分権改革」

新政権では、地域主権体

を対象とした入院治療に対する児童医療費助成制度を創設し、高額となる入院治療費の助成を行います。

子育て家庭の孤立化の解消を図るため、親子で参加できるミニ動物園等の開催、絵本作家による絵本の読み聞かせ、子育て中の親を対象とした健康相談などを実施します。

第4期介護保険事業計画の基本理念のもと、介護保険事業の円滑な運営に努め、民間事業者による認知症高齢者グループホームの整備を促進し、地域密着型サービス

の充実を図ります。働きながら資格を取得する「介護職員育成支援事業」を実施し、介護職場での雇用創出と、介護従事者の資質の向上に取り組みます。

障害者の自立に向けた介護サービスや就労支援、地域生活への移行に係るサービスを一元的に提供していくほか、町民体育館のバリアフリー化を実施します。

制の確立を政策の柱に掲げ、規制の見直しや権限移譲を進めるとされています。こうした中、地方分権改革推進計画が閣議決定され、地方税財政の改革や地方自治法の改正などの動きも加速することが予測されています。今後、国の動向を十分注視しながら、地方分権の進展に適切に対応して参ります。

新年度からは、身体障害者手帳の認定交付事務および特別児童扶養手当の認定事務についても、県から移譲を受けて、住民サービスの向上に努めることとしています。

平成22年度の重点的な取り組み

■総務部門

地域住民やシニア世代の社会参加を促すため、昨年度に引き続き、自主的で公益的な活動を行うグループや団体等に対して、公募に

ちづくりに取り組みます。

■建設部門

県道矢野安浦線・県道瀬野呉線の整備については、事業主体の広島県および関係機関に引き続き、早期の完成を強く要望するとともに、事業推進に全面的に協力します。

生活道路については、町道深原公園線、町道出来庭川角中央線、町道団地1・2号線の事業を引き続き進めるとともに、町道の適正な維持管理を計画的に行い、生活の利便性・安全性の向上を図ります。

昨年度に策定した「熊野町耐震改修促進計画」に基づき、一定の要件を満たす木造住宅の耐震診断に係る費用の一部を補助する制度を創設し、災害に強いまちづくりを推進します。

昨年度に取得した雇用促進住宅熊野宿舎は、本年4月から、コーポラス熊野として、幅広い所得者層の住

より、活動費の支援を行い、「住民参加によるまちづくり」を進めます。

昨年、出来庭地区で実施した「筆の街散策」は、多くの来訪客でにぎわいました。この成果を踏まえ、本年度は、中溝、城之堀地区も加えた地域で実施し、更なる交流人口の拡大と地域の活性化を図ります。

住民との協働により、旧筆づくり工場を活用したまちづくり交流拠点を整備し、参加体験型事業や産業観光を推進することにより、訪れる人の利便性と回遊性の向上を図ります。

わが国の伝統文化の魅力と奥深さを感じていただくため、10月に筆の里工房において、京都の陽明文庫から国宝、重要文化財を含む収蔵品を借り受け、特別展「陽明文庫・国宝展―近衛家1千年の至宝」を開催します。

筆事業協同組合が行う筆職人後継者育成事業や筆ま宅の用に供する賃貸住宅として管理運用を開始します。

住居表示事業は、呉地区、川角地区および出来庭地区の一部を対象とする第4期事業を進めます。

東広島・呉自動車道や県道矢野安浦線等が完成すれば、交通機能が強化され、広域的な連携や交流が深まることから、これらの整備に合わせて、深原地区町有地の造成を進めます。

公共下水道事業は、城之堀地区、初神地区および新宮地区の一部を整備します。水道事業は、新宮地区を中心とした未給水地区の配水管整備を行うとともに、引き続き、高所配水団地水道施設の整備として、皇帝ハイツ配水管の工事を進めます。

■教育部門

小学校1・2年生に書道科を設けます。書写の力だけでなく心を落ち着かせ、伝統文化を学ぶ機会として

つり実行委員会等への助成、筆の街散策パンフレットの作成など、筆文化や筆産業の振興を中心とした定住・交流対策に取り組みます。

町内企業の経営の安定等を図るため、中小企業融資制度の金融機関への預託金を、3千万円増額するとともに、新年度においても、中小企業融資制度利子補給金を行います。

■民生部門

「熊野町中央保育所」が、民営化により生まれ変わります。民間のノウハウを活用し、保育の充実を図るとともに、老朽化が進んだ園舎を改築し、保育環境の改善を行います。

子育て支援施策の一層の充実を図るため、本年4月から、小学生および中学生、大きな教育効果を期待し、推進します。

熊野第三小北校舎は、改築に向け解体します。熊野第一小西校舎の耐震補強工事のため、実施設計を行います。

熊野中、熊野東中は、教科・クラブ指導の講師を増やし、学力検査結果のフォローアップを図ります。

町民一人ひとりに幅広い学習機会を提供するため、地域の公民館や図書館で、各層・各年代層に応じた様々な学級・講座を開設するとともに、読書活動の推進を図ります。

小学生に対しては、安心・安全に活動できる場として、「放課後子ども教室事業」を引き続き実施します。男女共同参画プランに基づき、子育て支援や環境づくりを推進するための講座等を開設するとともに、「人権フェスティバル」を実施するほか、公共ホール音楽活性化事業等を開催します。